

会 議 録

1 会議名

令和3年度第2回上越市地域包括支援センター運営協議会

2 議題（全て公開）

(1) 令和3年度地域包括支援センターの運営状況について

(2) 令和4年度地域包括支援センターの業務について

3 開催日時

令和4年2月28日（月）※書面開催

4 開催場所

-

5 傍聴人の数

-

6 非公開の理由

なし

7 書面会議に参加した者の氏名（敬称略）

- ・委員：和栗健、植木信宏、田中美紀、竹内明美、馬場隆信、白倉由利枝、
宮越亮、内藤伸子、江部健幸、金澤責、佐藤正孝、吉村敏樹、
加藤智範、河原畑尚美、竹田徳子

- ・事務局：笠原福祉部長

すこやかなくらし包括支援センター 渡辺所長、岩崎次長、柳澤次
長、高宮上席社会福祉士長、福田副所長、佐藤保健師長、板垣主任、
坪井主任

高齢者支援課 小林課長、小松係長

福祉課 宮崎課長、牛木副課長

8 内容（要旨）

(1) 開会

(2) 議事

別紙のとおり

9 問合せ先

福祉部すこやかなくらし包括支援センター支援係

TEL : 025-526-5623

E-mail : sukoyaka@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。

令和3年度第2回地域包括支援センター運営協議会（書面会議）の質問・意見に対する回答一覧

No.	委員	意見・質問	資料 ページ	回 答	回答課
1	和栗健	介護支援専門員として日々の業務に携わる中でも、心身の不調や障害、家族関係など更に生活困窮も含めた複合的な課題を抱えたケースの対応が増えていると感じている。今後もより地域包括支援センターとの連携、情報共有を図りながら業務に携わっていきたいと思う。	—	—	すこやかなくらし包括支援センター
2	植木信宏	資料1-2 業務実績(1)－②高齢者虐待の状況について、R2年12月末とR3年12月末を比較すると、通告、受理件数が共に減っているが、件数が減ったと見てよいのか、それともコロナ等の影響があるのか、わかる範囲で知りたい。	資料 1-2- (1)②	令和3年12月末時点において、昨年度と比べて減少していますが、高齢者虐待の通告及び受理件数は、年によって増減することから、減少傾向という認識はありません。また、コロナウイルス感染症の影響については、確認できておりません。	すこやかなくらし包括支援センター
3	植木信宏	地域包括支援センターによって、ケアマネジャーとの連携の仕方に違いはあるか。	資料1	ケアマネジャーとの連携には違いはありません。利用者の状況等に合わせ、支援を行っています。	すこやかなくらし包括支援センター 高齢者支援課
4	田中美紀	資料2の令和4年度重点取組業務「相談支援に関する対応力の向上」の現状を見させていただき、現場は日々大変な思いをされているのだらうと思いました。困っている方に寄り添い、根気よく見守っていただいていることに感謝いたします。やはり現場第一だと思いますので、報告業務など机での作業は減らしてほしいです。地域包括支援センターさんの負担を減らしていただきたいです。	資料2	令和4年度から介護予防ケアマネジメント事業における報告と請求事務を見直し、請求管理システムで新潟県国民健康保険団体連合会へ請求する仕組みとすることにより、市へ報告する書類の削減と事務負担軽減につながると考えています。	高齢者支援課

No.	委員	意見・質問	資料 ページ	回 答	回答課
5	竹内 明美	相談内容も多様化とみうけられます。コロナ禍でどのように取り組まれているか。また、コロナ禍で相談支援業務に支障はないのか。	資料1	人との接触や行き来を控える結果、閉じこもりが懸念されることから、感染症予防に配慮した上で、実態把握訪問等を行い、家庭でできる運動の紹介などを行っています。また、民生委員や町内会長等と連携し、必要時には家庭に訪問し、相談対応を行っています。	すこやか な暮らし包 括支援セ ンター
6	白倉 由利枝	総合相談件数(高齢者支援・障害者等支援業務の双方ともに)例年度比で増加であるが、その背景と今後想定される課題や対応について構想があれば教えて頂きたい。	資料1	総合相談の増加の背景としては、高齢者人口の増加のほか、地域包括支援センターが認知されてきている現状や、複合的な課題のあるケースへの支援が長期化していることがあると考えています。様々な相談に対応していけるよう、研修会の実施を通して、対応力の向上を図っていきます。	すこやか な暮らし包 括支援セ ンター
7	白倉 由利枝	総合相談のキャッチの仕方について、電話や来所、関係者連絡以外で潜在的課題の掘り起こしとなった(機能した)地域資源を教えてください。	資料1	地域で開催しているすこやかサロンや老人会等の集まりで、心配なケースの相談を受けることがあります。また、宅配弁当や新聞店、商店や銀行などからも、情報提供をいただくこともあります。	すこやか な暮らし包 括支援セ ンター
8	白倉 由利枝	介護予防ケアマネジメントで必要な方は、介護予防教室につながっていますか。また、地域包括支援センターと生活支援コーディネーターの連携はどの様な指導をしていますか。	資料1	介護予防ケアマネジメントでアセスメントした結果、介護予防教室の参加が必要な方は、介護予防教室をご利用いただいています。 生活支援コーディネーター研修会において、介護予防教室参加者で心身機能低下等の変化が見られ心配な方は、地域包括支援センターへつなぐよう指導を行っています。	高齢者支 援課

No.	委員	意見・質問	資料 ページ	回 答	回答課
9	宮越 亮	資料1関連①地域包括支援センター職員を対象とした研修について、障害者支援にかかる発達障害やパーソナリティ障害に関する研修は折にふれ、そこかしこで行われていると思います。しかし、昨今注目されていることは、これら発達障害やパーソナリティ障害に愛着障害(アタッチメント障害)が介在したりすることがあるということです。人の「育ち」に愛着関係がいかに重要であるか、また愛着障害という概念を障害者支援の視座に握ることがいかに大切であるか…地域包括支援センター職員の方々に是非学んでいただきたいと思います。	資料1	事例検討や研修会を通して、対象者の成育や生活を踏まえた支援ができるよう、取り組んでいきます。	すこやか なぐらし包 括支援セ ンター
10	内藤 伸子	資料1-(1)地域ケア推進会議の障害福祉の連携をテーマとした会議の取組状況成果について、「つながり」はもちろん大切な事ですが、支援者につながらない方、つながりたくない方々の継続した関わりもとても大切な事だと思います。事例検討などを通じて上越市内地域包括支援センター全体の更なる支援の向上を期待しています。	資 料 1-1- (1)	事例検討や研修会を通して、今後も地域包括支援センター職員の対応力向上を図っていきます。	すこやか なぐらし包 括支援セ ンター 福 祉課

No.	委員	意見・質問	資料 ページ	回 答	回答課
11	江部 健幸	<p>①各地域包括支援センターの事業担当者の事業内容の理解 自立相談支援事業で行える範囲、就労準備や家計改善が行う事業の範囲が、地域包括支援センターや困窮事業担当者で理解に差があり、「就労に課題→就労準備へ」「金銭の課題がある→家計改善へ」等アセスメントがない中でのつなぎも多くみられている。 自立相談支援事業で就労や家計の支援をどこまで行うのか等実際の事例の振り返り等を行い、共有を図り、相談技術の向上と効率的かつ有効な連携を行っていく必要があると感じている。</p>	資 料 1-2-(3)	自立相談支援事業と就労準備等支援事業の効果的な連携に向け、毎月開催している支援調整会議での話し合いを通して、対応力の向上を図っていきます。	福祉課
12	江部 健幸	<p>②業務の重複部分への支援 自立相談支援事業で繋がってくる方々の背景を見ると、これまで各地域包括支援センターの多くの事業担当者が関わってきた介護保険事業とはアプローチの仕方が異なることがわかる。特に県外から転入した方々への対応や住所がない方等への対応は危機介入アプローチだけではなく、ナラティブアプローチを含めた長期的な支援が必要となることが多い。さらに自立相談支援の対象者(またはその家族)の多くは軽度の知的障害や発達障害が多いと感じている。こういった複数の課題に対して各地域包括支援センターの事業担当者のみで対応は困難となるため、きちんと伴走支援ができる体制を示していく必要があると感じている。①とは矛盾するが、役割を認識したうえで連携をしていく、伴走しながら支援を一緒に行っていく「支援者支援」の仕組みを作ることが急務と思われる。</p>	資 料 1-2-(3)	対応が難しいケースに対し、適切な支援ができるよう、研修会を通して専門職の対応力の向上を図るほか、関係機関との連携を含めた支援の仕組みについて、検討を進めていきます。	福祉課 すこやか なぐらし包 括支援セ ンター

No.	委員	意見・質問	資料 ページ	回 答	回答課
13	江部 健幸	③今後の地域包括支援センター事業について現在の地域包括支援センターが一元的に相談を受けていく体制を今後も継続していくとなると、現在の介護保険における地域包括支援センター事業だけではなく、もう少し拡大しなければならないのでは、と感じている。現在のこの体制をより活かせるよう「重層的支援体制整備事業」の導入を検討し、より柔軟に支援を行っていただけるような体制の構築をお願いしたい。	資 料 1-2- (3)	包括的な相談支援体制を整備してきたことにより、日常生活に課題を抱える様々なケースが顕在化しています。誰もが住み慣れた地域で、社会との接点を持ちながら自分らしく生活していけるよう、関係機関等と連携した、包括的な支援の充実について検討していきます。	福祉課 すこやかなくらし包括支援センター
14	吉村 敏樹	資料1-1-(2)について、一部の介護支援専門員はICTツールを活用して多職種との連携を深めているが、まだまだ浸透していないと思われる。ICT ツールの活用が有効であることは理解しているが、実際に使い方が分からない方々が多いのではないかと。実例を基にした研修会等も必要かと思えます。	資 料 1-1- (2)	ICT ツールの活用について、上越地域在宅医療推進センターとも連携しながら、今後も活用について周知していきます。	高齢者支援課 すこやかなくらし包括支援センター
15	加藤 智範	資料 1-1-(1)について、地域ケア個別会議での助言を実践し目に見える形で効果が確認できたことは、対象者にとって大変喜ばしいことであると同時に、職員のモチベーションの維持にも繋がるものと思われる。今後もこのような事例が増え、適切な介護予防支援に繋がることを期待します。	資 料 1-1- (1)	今後も助言者を交えた地域ケア個別会議の実施を通して、適切な介護予防支援につながるよう、取組を推進していきます。	すこやかなくらし包括支援センター
16	竹田 徳子	資料 1-1-(1)地域ケア個別会議について、効果につながっていない事例に対しては、どのように支援しているか	資 料 1-1- (1)	会議で検討した事例において、効果が見られない場合には、地域包括支援センターと振り返りを行い、支援内容を再検討していきます。	すこやかなくらし包括支援センター

No.	委員	意見・質問	資料 ページ	回 答	回答課
17	竹田 徳子	資料 1-1-(1) 地域ケア推進会議について、見守りの意識啓発につなげたと記載があるが、地域で安否が確認できない事案があった時は、民生委員等から地域包括支援センターに連絡等は届いているか。	資 料 1-1- (1)	民生委員等の地域の支援者から「新聞や郵便物が溜まっている」「電気の点灯が数日見られない」等の情報が寄せられることがあり、その際は安否確認を行っています。	すこやか なくらし包 括支援セ ンター 高齢者支 援課
18	竹田 徳子	資料 1-1-(2) 医療・介護連携の推進について、情報交換の上に成り立つ要介護者への生活向上への取り組みの必要性、些細な変化を見逃さない強化を望みます。	感想	多職種が連携しながら支援ができるよう、情報共有等に関する研修会を行っていきます。	すこやか なくらし包 括支援セ ンター
19	竹田 徳子	資料 1-2-(1)② 高齢者虐待の状況について、どの様な形での通告だったか、また虐待の内容はどうだったか。	資 料 1-2- (1)-②	高齢者虐待の通告元の内訳は、警察、介護支援専門員、介護保険事業所、家族、地域住民等となっており、最も多い通告が警察です。虐待の内訳は、身体的虐待、心理的虐待、介護放棄となっており、最も多くあった虐待は、身体的虐待となっています。	すこやか なくらし包 括支援セ ンター
20	竹田 徳子	資料 1-2-(1)③ 介護支援専門員への支援業務について、支援困難事例とは、例えばどのようなものがあるか。	資 料 1-2- (1)-③	「必要と思われる医療や福祉サービスの利用を拒否するケース」、「関係機関への理不尽なクレームを繰り返すケース」などです。	すこやか なくらし包 括支援セ ンター
21	竹田 徳子	資料 1-2-(1)④ 介護予防ケアマネジメントについて、提案されたケアプランに対し、利用者の気持ちが追いつかない時や内容を理解していないことがあるので、ケアマネジャーは、利用者や家族とコミュニケーションをとって、理解を確認しながら説明するなど、丁寧な対応を望みます。	資 料 1-2- (1)-④	地域包括支援センター職員研修会や居宅介護支援事業所の集団指導等において、家族と円滑なコミュニケーションを図るよう説明しています。引き続き、介護支援専門員に対し、利用者やご家族に丁寧に対応するよう説明してまいります。	高齢者支 援課
22	竹田 徳子	資料 1-2-(5) 地域包括支援センター職員を対象とした研修会の結果、地域包括支援センターの実際の業務に変化はありましたか。	資 料 1-2- (5)-①	障害福祉や障害年金制度等の研修を通して、障害のある人へのアセスメントの方法や、障害年金の制度について学び、相談対応に活かしました。	すこやか なくらし包 括支援セ ンター

